

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600017		
法人名	有限会社 モリ・ケア・サービス		
事業所名	グループホーム いわまの郷	ユニット名	Aユニット
所在地	〒319-0202 茨城県笠間市下郷6004-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891600017-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年10月28日	評価機関 決 済 日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節の行事を積極的に行い、利用者様と職員が共に季節や自然を感じ、明るく笑顔を大切にして家庭的な生活が送れるよう日々の介護に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域とのつながりや交流を大切にしており、夏祭りや運動会、敬老会に地域住民や家族等を招待し、運営推進会議を兼ねた外部者参加型のレクリエーション行事を開催して好評を得ているとともに、クリスマス会や陶芸の丘ツアーなどのイベントを企画し、利用者は楽しんでいる。

代表者と管理者、職員は、利用者が本人のペースでゆっくり過ごせるよう、決められた曜日以外でも自由に入浴ができるよう利用者本位の暮らし方を支援しているほか、丁寧な言葉遣いの対応を心がけ、利用者の尊厳を大切にするよう努めている。

職員は日常生活の中で見つけた良い出来事を「ポジティブ運動ノート」に記載し、前向きな姿勢で生き生きとした支援を行えるよう工夫している。

利用者職員は、和気あいあいと穏やかな生活を送っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が事業所の理念に基づき支援をしている。会議等でも理念の確認を行い玄関入口にも掲示している。また、毎月目標を決め全職員で実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事業所の入り口に掲示するとともに、毎月の施設会議で理念を取り上げ、話し合っており職員で共有している。 代表者と職員は、利用者が地域行事に関われるよう自治会に働きかけ、散歩や外出の支援を積極的に行うなど、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方の協力があり月2回の傾聴ボランティアや2ヶ月に1回の折り紙教室を行っている。また、外部からは自由に立ち寄ってもらっている。	事業所は自治会に加入し、利用者は近隣への散歩やウッドデッキでの外気浴時に地域住民と挨拶を交わしている。 事業所主催の敬老会や夏祭り、運動会には地域住民の参加があるほか、祭りの獅子舞が毎年事業所に立ち寄るなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を積み上げた経験と知識から、いつでも介護に関する相談や認知症に対する支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回家族等の代表や市職員、民生委員、元民生委員などに参加して頂き事業所の現状を知ってもらうことと利用者様と馴染みの関係になってもらっている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民代表者らが参加して行なっているが、年6回開催するまでには至っていない。 会議では利用者の状況報告や活動報告、外部評価の結果報告等を行い、出た意見や行事の感想などを次回の行事等に活かしている。	運営推進会議は年6回以上開催し、地域との連携をもとに、出た意見等を運営に活かしていくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市担当者に事業所の状況を伝えている。また、市主催の介護保険利用調整会議などに出席している。	市担当者は毎回運営推進会議に出席している。管理者は市主催の研修会や地域ケア会議へ出席し、市職員に積極的に相談や報告を行っている。市の担当職員からは、入居相談を受けることも多く、協力関係を築きながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成してある。身体拘束をしない取組みを全職員が把握し会議や毎日の申し送りなどで話し合っている。また、研修会にも参加し身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	「虐待防止、身体拘束排除マニュアル」を作成するとともに、管理者と職員は年1回の内部研修に参加し、学んだ内容を全職員に伝達している。毎日の申し送りでも身体拘束の廃止について話し合っており、外に出ようとする利用者がいれば、見守りと声かけを工夫して利用者の立場に立った支援を行い、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成してある。日常業務の中や毎日の申し送りなどで虐待についての理解や取組みなどを話し合い研修会にも参加し虐待をしない介護に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の希望や必要に応じ使えるように支援している。また、会議等で勉強会を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要項目説明事項について分かりやすく説明している。また、利用者様や家族などの質問や分からないこと、気になることについても丁寧に説明している。利用者様の生活についての望みや希望についても本人や家族に確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や電話連絡時には利用者様の状況をお話している。家族の要望や希望についても聞かせて頂き、日常生活の中で活かしている。	職員は利用者との日常的な関わりの中や、家族等の来訪時などに意見や要望を聴くように努めている。 年に1度の家族会開催時に、家族アンケートを実施しており、アンケートの結果を受け、朝の整容チェックや入浴後の爪切りへの配慮をさらに行うなど、利用者や家族の意見を汲み上げ、ケアの実践や運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議でケアに対する現状と改善案などを話し合い、日常のケアに活かし感染症や事故等を防いでいる。また、気づきや意見等があればその都度話し合いを持ったり、申し送りなどで報告している。	代表者や管理者は、月1回の施設会議や年2回の個別面談で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員の提案を取り入れて、尿路感染症予防対策を徹底した結果、感染症が減少するなど、職員の意見や提案を運営に反映している。 代表者は職員と日常的にコミュニケーションを図り、自由に意見等を出し易い雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務体制を維持し職員の資格所得により給与水準の見直しを行っている。また、職員一人ひとりの個性や特技を活かし利用者様と共に楽しむことや生活することでやりがいのある職場環境に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を月に1度行い、職員の自己啓発に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	笠間市主催の連絡協議会への参加や社協の行事や勉強会に参加することで施設間の交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際は以前の暮らしや身体の状態などを聞かせて頂き、その人に合った生活が過ごせるように支援している。また、望みや分からないことがあれば、その都度聞かせて頂き安心して過ごしてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの希望や困っていることなどを聞かせて頂き希望に沿った生活を送れるように支援している。また、分からない事や不安なことがあれば、その都度お話を聞かせて頂き連絡を密にするなど安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族等と大切なことや必要なことを話し合い生活に取り入れている。また、生活の中で希望などがあれば利用者様や家族等とその都度話し合いながら必要なサービスを取り入れている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションのときにも共に楽しみ共通の話題などで共に暮らす喜びを感じている。また、本人の好きなことや得意なことなども他利用者様や職員と教えあったりと生活感を味わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の希望があれば、いつでも本人と会ってゆっくり会話を楽しんでもらっている。また、気づいたことや体調の変化や病院受診した際には、その都度家族に連絡をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、いつでも大切な人や馴染みの人と面会や外出などをして頂き楽しんでもらっている。また、居室でゆっくり過ごして頂き懐かしい話や思い出話などをされ笑顔で過ごされている。	事業所に友人や知人が訪ねて来た際には、職員はお茶などを出して居室で寛げるよう、積極的に支援をしている。 利用者の希望にそって、家族等と同行して自宅へ外泊したり、家族等と一緒に馴染みの店で買い物をするほか、墓参り等へ出かけている。 職員は馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で他利用者様や職員などとふれあうことやレクリエーションや行事を通して、互いに楽しみささえ合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了して、在宅に戻ったり施設に入所された方など、何か困り事があればいつでも相談頂ける体制は整っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の会話や行動などから思いや希望の把握に努め、連絡ノートや介護日誌、朝の申し送りなどで情報を共有している。また、言葉に出せないときは表情や態度などから感じ取れるような支援をしている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の会話や表情、仕草などから暮らしの希望や意向を汲み取るよう努めるとともに、暮らしの希望や意向の把握が難しい利用者の中には、生活歴に基づいてその人らしく暮らせるよう支援をしている。 家族等からは面会時や電話により意向を確認し、把握した情報は「連絡ノート」や「介護日誌」に記載しているが、把握するまでには至っていない。 申し送りをして共有してはいるが、日々の記録に埋もれてしまい、振り返って把握するのが難しい状況となっている。	日々の関わりの中で、職員が利用者の希望や意向を把握した際は、分かり易い形で記録に残す工夫をし、全職員で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の様子や日課にしていることなどを確認し趣味や好きなことについても話しを聞かせて頂いている。また、本人や家族等から気づきや希望があれば、その都度聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、個人ノートで日常の生活の様子を全職員で把握している。健康面ではバイタル表、食事表、排泄表などで確認し体調に変化があれば、その都度看護師等と話し合いをもっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	以前の生活の様子や好きなこと、得意なことを利用者様にお聞きし、また、御家族様には、どのような暮らしをしてほしいか希望を確認をして、職員と話し合いをしながら、介護計画を作成している。	介護計画は計画作成担当者が利用者や家族等の意見や要望を聞き、関係者とケアカンファレンスを開いて毎回記録に残し、作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しを行っている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は個人ノートに記入し普段と変わった様子があれば、その都度職員間で話し合い、申し送りなどでも全職員に伝えている。話し合った結果やケアの見直しなどは実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との話し合いをもち、利用者様一人ひとりに合ったサービスを提供している。また、その時の状態や希望などからサービスの見直しを行い常に最善の支援が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の傾聴ボランティアや2ヶ月に1回の折り紙教室の方々の協力を得て楽しみを持った生活が出来るように支援している。また、協力を得られる方々は、よろこんで招いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な病院受診を行い、安定した体調で過ごして頂いている。また、体調に変化が見られたときには、その都度病院受診を行い早期に対応している。病院受診時には、毎回家族等に連絡をとり安心して頂いている。	契約時に家族等と話し合い、利用者の希望するかかりつけ医への受診を支援している。職員が付き添って受診した場合は、受診結果は電話や面会時に家族等へ報告するとともに、個別の申し送りノートを作成して記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と変わった様子やバイタルなどに変化があれば、すぐに看護職員に報告し適切な対応が出来るように支援している。また、家族等にはその都度連絡をとり状況の説明をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、必要な情報や入院までの経緯などをこまかく医療機関に伝えている。また、家族等の協力を得ながら適切な医療を受けて頂き、早期に退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてのマニュアルを作成し家族等との話し合いの中で、方針などを確認して頂き、同意した中で支援させていただきます。	事業所では看取り介護は行わない方針であり、利用者と家族等には「重度化終末期対応指針承諾書」にて、契約時に説明し、同意を得ている。 利用者の急変時には、救急患者対応の医療機関を受診し、連携を図りながら積極的な治療を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成してある。急変時や事故発生時の対応などは、看護職員などと申し送りや会議等で話し合っており勉強会も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法についてマニュアル化してある。消防署立ち合いの中、夜間に火災発生時の避難訓練と施設内での避難訓練を年に1回ずつ行っている。避難訓練後には反省会も行い、安全に避難できるように支援している。	消防署立会いのもと、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、地域住民の参加を得ている。 訓練後は反省会を行い、出た課題について話し合うとともに記録に残し、次回の訓練に生かしている。 火災報知機や消火器の使い方マニュアルを作成し、緊急時に備えているほか、米や飲料水、ビسケット、毛布等を備蓄しているが、消費期限等を記載して管理するまでには至っていない。	非常時の備蓄品に関しては、品名や数量、消費期限等を記載した備蓄品リストを作成し、定期的に確認して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬や共感を持って対応し、その人に合った声掛けを行っている。プライバシーなどにも配慮し、入浴時やトイレ誘導時には声掛けのタイミングや、その時の状況などを考え行うようにしている。また、個人ファイルは事務所で管理している。	代表者と管理者、職員は、利用者の人格の尊厳やプライバシーを大切にし、「言葉は態度に表れる」という考え方のもと、特に言葉遣いを丁寧にする支援を心がけ、入浴や着替え、排泄時には個別に対応している。 プライバシー保護に関する内部研修を年1回開催し、職員全体で学ぶ機会を設けている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる引出しに保管し、情報漏洩に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がいつでも思いや希望を伝えやすいような関係や雰囲気をは心がけている。本人から、なかなか言い出せない様子の中には、丁寧に声掛けや傾聴を行い自己決定も出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを大切にして、自分らしい楽しい生活を過ごして頂いている。また、希望などがあればその都度お聞きし、充実した生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や大切な衣類などは外出時や特別な日に身に付けて頂いている。日常から身だしなみのお手伝いや服を一緒に選ばせてもらうなど、おしゃれに気をくばっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせ食べやすい食事形態にしており、おいしく安全に召し上がってもらっている。月に1度の誕生会には特別メニューなどを用意し楽しみのある食生活を送ってもらっている。食事の準備や片付けなども一緒に行い生活を共に楽しませている。	職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事を楽しめるよう声かけしながら同じ食事を摂っている。食事中や食後の団らんでは、利用者に馴染みある懐メロや童謡等の音楽を流し、気分良く食事ができるよう配慮している。献立には季節感のある旬の果物等を取り入れ、毎月の誕生会では赤飯や混ぜご飯などの特別献立により、楽しい雰囲気となるよう工夫している。利用者は職員と一緒にコップや箸を揃えたり、皿を重ねるなど出来ることを進んで手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はおいしく食べて頂けるように食事形態などを看護師を交えて話し合い決めている。毎食事の摂取量や水分量をチェック表に記入し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後や就寝前には口腔ケアをして頂き、本人の出来る範囲で行ってもらい、その人に合わせ見守りや介助で対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行きたい素振りや訴えがあれば、すぐに対応しトイレでの排泄に心がけている。一人ひとりの排泄パターンを把握し定時誘導することで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレへの声かけや誘導を行っている。声かけは小声で言うなどの配慮をしながら誘導し、失敗を減らして排泄が自立できるよう支援している。夜間でもポータブルトイレの使用により、おむつを使用しない支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ることや出来る範囲で歩行や運動などを行い便秘の予防に取り組んでいる。また、1日の水分摂取量や排泄状況などから排便コントロールを行い気持ち良く排泄が出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や季節に合わせて入浴方法を変えている。週3回の入浴日以外でも希望や状況に合わせて入浴を楽しむことが出来る。また、機械浴や浴槽など、その人に合った入浴を楽しめるように支援している。	入浴は基本的に週3回を基本としているが、希望によりいつでも入浴やシャワー浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者がある場合は、無理強いせず声かけする職員を替えたり、時間を変えるなどの工夫をして、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や体調に変化がある時には、いつでもゆっくり休憩できるように支援している。日中、夜間共に居室は落ち着いた環境を作り安心して休めるようにしており、声かけにも気配りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は利用者様ごとのファイルで管理し全職員が把握している。薬の変更や追加・減量などがあれば、申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をしている。また、薬は一人ひとり飲みやすく工夫シトロミなどで安心して飲んでもらっている。薬の変更後は体調に変化などが無い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来ることや得意なことを活かし生活の中で、役割や手伝いなどをして頂き楽しみや喜びをもって過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	年間行事の中で花見やお菓子 工場見学、野菜の直売所への 買い物に出かけている。 また、利用者様や家族の希望 により外出や外泊などをされて 、知人に会ったり、自宅へ 戻られたりする機会をもうけ ている。	天候のよい日には、利用者と職員は事業所の周辺 を散歩したり、ウッドデッキで外気浴や体操を楽し めるよう支援している。 利用者の希望も考慮して年間行事予定を立て、 ショッピング施設や「亀印お菓子博物館」、「ポ ケットファームどきどき」、「陶芸の丘」など、普 段は行けないような場所へも行けるよう、家族等の 協力を得ながら積極的に外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	ホームでお預かりしている小 遣いの中から、ご本人の希望 に応じ家族や職員同行のもと 買い物などが出来るよう支援 している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	家族や大切な人の声が聞きたく なくなった時には、いつでも電 話をかけて安心して頂いてい る。手紙などのやりとりも出 来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	各ホールは光を多く取り入れ 明るく清潔な空間を保ち、心 地よく過ごせるように支援して いる。玄関や廊下には季節 の花や利用者様と協力して 作った作品などが展示してあ る。	居間兼食堂は天井が高く開放的で、明るく快適に 過ごせる空間となっており、各ユニットには加湿器 を設置して湿度管理をしている。 Aユニットには小上がりの和室、Bユニットには テレビの前にソファが配置され、思い思いに寛げ るスペースとなっている。 食堂や廊下には、折り紙教室で利用者と職員が制 作した作品や、行事で出かけた際の楽しい写真を掲 示し、季節感や生活感があり、居心地よく過ごせる よう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良い場所や落ち着ける席で、ゆっくり思いのまま過ごしたり、気の合う同士で楽しく過ごせるようにソファや席のレイアウトも工夫している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や家族からのプレゼントなどを居室に飾り、落ち着ける環境に心がけている。生活に必要な物は、以前から使っていた物や気に入っている物などを使って頂き、心地よく過ごせるように支援している。	各居室にはエアコンやベッド、整理筆筒、カーテン、洗面台が備え付けられている。 利用者には机やテレビ、仏壇等大切な物品や使い慣れた物品を持参してもらうほか、家族等の写真を飾るなど、これまでの暮らしと近い環境で居心地よく暮らせるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分らしく生活して頂く為に自由に居室やホールを出入りして頂き、トイレや浴室などは分かりやすく名札を掲示している。また、自立した生活が送れるように必要以上の介入はせず、見守りなどで対応するように支援している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいわまの郷

作成日 平成28年4月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は家族や市職員、地域住民代表者らが参加しているが、年6回の開催までには至っていない。	運営推進会議は年に6回以上開催し、地域との連携をもとに出た意見等を運営に活かす。	年6回の運営推進会議の開催を行い、利用者の状況報告や活動報告を行い意見や行事の感想などを活かす。	平成28年4月から
2	23	家族等から意向などを確認し、連絡ノートや介護日誌に記載しているが把握するまでは至っていない。	職員が利用者の希望や意向を把握した際は分かり易い形で記録に残し全職員で共有する。	日々の関わりの中で、職員が利用者の希望や意向を把握した際は、分かり易く記録に残し全職員で把握する。	平成28年4月から
3	35	緊急時に備え米や飲料水、ビスケット、毛布等を備蓄しているが、消費期限等を記載して管理するまでは至っていない。	備品リストを早急に作成し備蓄品の数や消費期限などを明確にする。	非常時の備蓄品に関しては、品名や数量、消費期限等を記載した備蓄品リストを作成し、定期的に確認する。	平成28年4月から
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。